



## 銀行の窓から

### 役所の窓から

銀行家は銀行の窓からのみ社會を見るから金融の世界の外は目に映らない、飛行家は飛行機上からのみ社會を見るから鳥瞰圖に止まつて豆人寸馬の動きとしか見へない、潜水夫は海底の一角から社會を見ると魚と人間とか上層と中層に住んでるとしか見へない、小學校教員は小學校の校庭からのみ社會を見るから児童の家庭の貧富か目につく軍人は銃先からのみ社會を見るからゴーストツプの交通信號は輕視される、政黨者流は投票の移動から社會を見るから政權の争奪に力癩を入れる、役人は役

所の窓から社會を見るから法規萬能主義の外に出られない、科學者は科學の書籍を通じて、醫者は聽診器に依つて、經濟學者は新舊經濟書に依つて、學校の卒業者は學校のノートから各々其立場立場からのみ社會を見るに止まるから目に映るものは一

小部分に止つて社會の全貌眞相を認識することを得ない、大所高所から社會を觀察する時に初めて社會の全局が明かに視られ得る、各人の立場から社會を見るのもよいが其立場を離れて社會を見るのが今日の時局に於ては必要なことである、交通の政策を樹つるにも帝國の豫算を審議するにも滿州國を指導するにも己れの窓口を離れて觀察することが喫緊事である。(ヒロン)

注 本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

しつこいゴロー

### ストツプ問題

大阪で一兵が交通信號を無視した行動を取つた事から交通巡査との間に葛藤を生じたので夫れ〳〵己れに有利な様な主張陳述をしたため事件は向上發展して大阪府當局と第四師團幹部との交渉事件に變じ、其交渉も破裂して各社會に訴へて其判断を受けんと欲しての事か双方が社會に對し新聞紙を通じて聲明を爲した、社會一般は左程のショックを受けなかつた、大阪の新聞は大事件の如くにかき立てたが事件の眞相は世間には判明しないとはいふものの、一兵と一巡査との罵言の交換が組打にまで進んだ

のみで此一事件は巡查が皇軍を耻めようとしたことでもなければ一兵が汎く行政權の行使を妨害せんとしたものでない、事は双方の言葉や行動が互に癩癢にさわつたのに基因するに止まる、夫れが「名に生きて名に死す」と云ふ大聲明となつて現はれたから事件は益々惡化した、聲明は取消すとなにかゝるから後へひけないことになつた、公平な検査當局は其職分を超越して仲裁者となつた、司法官としては達觀した態度で世人は共鳴した、然るに事は意外に出てた、折角の妥協策も奏效しなかつた、而かも巡查に負傷を興へたは關係兵の行爲であるとかないとかまたまた泥仕合が始まつた、松田聯隊長の聲明の當否はさて置き今更軍の名では聲明しない方が賢明だと信ずる、事を處するにはもつと恬淡たるを希望する。世人は真相を知らずとも存外に公平であることを諒解するがよい。此一文を草する時に新聞紙は報じて曰く數ヶ月間に涉りて擧眉せしめた事件も漸く妥協成立して

一兵の起訴は取下げられたと行くべき處に行き着いたので之れで軍の名も疵付けられず警察行政も無事に終つたと言ふべきである。(香雲生)

### 道路占用と結婚解消

道路の占用と結婚の解消……誰が聞いても如何なる因果關係があるかと云ふことは簡単に了解し得ないであらう。アリストートルの論理學を見ても、カントの哲學を見ても一寸見當が付かない。田中好氏の土木行政にもありそうにもない。事程左様に難解なのであるのである。

處はS縣I町に岩崎新太郎と、かねと云ふ齡七十歳に垂んとする老夫婦があつた。ところが此のI氏が道路繼續占用を願したものだ。すると之を受理した町役場吏員が、時恰も米突法の改正になつた爲、從來の平方坪を平方米に換算した。其の際其の時如何なる誤りか約三倍未滿の面積と成つてしまつた。そして其の儘許可したので、

従つて占用料も約三倍に成つた。不幸にしてI氏は目に一丁字位しかなく許可指令に何の様な事が書いてあるか判らず、以前と占用料は同様だと思つて居たのである。すると納入告知書が來た。驚いた事には何時も占用料が三倍にも成つたか不思議で成らず、吏員に之を訊したが却々解決がつかず結局占用を廢止する事にした。そこで今迄の店舗を移轉せしめなければならず、それでは困ると云ふので更に占用を願せんとした。然し事實は繼續占用であるから此の儘ではいけない。妻が出願するのではI氏の許可を要するし、そんな事をするならば自分ができる。然し以前の關係もあるし、兎角うまくゆかない。そこで氏は寧ろ妻を離婚し單獨出願せしむるに如かずと考へ、六十代にも成る迄運添つて來た糟糠の妻をいへ無く離婚して仕舞つた。

何んと驚いた事ではなからうか。結婚解消の事由には随分澤山有る様だ。曰く趣味の不一致、曰く性格の不一致、等々然し道

路占用が結婚解消の原因と云ふ事は、洋の東西を問はず、前代未聞の椿事である。如何に結婚解消が現代の流行であるかの様であつても、斯く迄老夫婦に滲潤して居ようとは。筆者は此の話を聞いて暫し呆然たらざるを得なかつた。馬鹿々々しいと云はうか。何んと云はうか、笑も出来ないナンセンスだ。

道路占用は何人も交通に障害はないかと云ふ事は直観的に判り得る事ではあるが、此の裏面迄は一見當がつくまい。政治の要諦は民心を安からしむるにある。道路の占用結婚を解消せしむ。何うして是の様なことで人心を満足せしむる事が出来得よう。宜しく三省して依つて以て是正すべきである。(I I 生)

## 議會へ議會へ

昭和九年度國家豫算の編成に關しては國防第一主義の許に其方針を定められたとの事である。外民族的威壓と内國民的不安と

の所謂非常時局である、事已むを得ない方針であらう、一般國民も新聞記者も異存はあるまい、だが國防費の大體に對しては高橋藏相は一も二もなく共鳴したか海軍費に就ては原價が問題となつて海相と藏相との懸引が始まつた様子である、どう落ち付くか知り得ないがそれはそれとして他の各省の要求に對する藏相の削減は國家財政の將來を憂ひて大斧鉞を加へられたので關係各省では非常時局對策からの要求である理由で其復活を要求して止まない形勢である、之れも至極理の在る所と思はるゝが高橋藏相に言はしむればない袖はふれないと一言を以て答へらるゝであらう、吾等は帝國財政の將來を考察するに赤字公債に次ぐに赤字公債を以てして累年其額を積加することに思ひ至らば高橋藏相を待たして國家の爲に憂慮に堪ざる次第である、故に單に現在の民力に應じたる財政觀を以てすれば國防費も教育費も産業費も交通費も新規歳出を排除するの外はないのである。然

るに三六年の國際關係を顧慮し滿洲問題、南洋委任統治問題乃至國際經濟問題に想到するときに無い袖を振らねばならぬ情態と思はるゝのである、而かも國防の第一線は軍事的設備にあるは言ふまでもないが國防の第二線は一般國民の資力知力徳力に待つべきものである、加之軍事當局が計畫し明年度豫算を以て要求する設備に依つて有事の際國家は安全に國民は脅威を感せしめられざることは斷乎として保障し得るや否や更らに事の生ずる時機が數年の後に到來するものとすれば將來財政を維持する國民の負擔力は如何、今日に於て永遠無窮の國家保持を思へば將來の負擔力を不斷に涵養し置くは必須的政策であるは疑を容るゝの餘地がない、單に國防第一線の軍事的設備にのみ急にして此負擔力涵養策を忽略し付するが如き近視眼的政治は吾等の共鳴し能はざる處である、故に交通的設備即ち道路の如きは産業の發達知力の普及などの點から見て將來負擔力涵養の重大任務を有する

ものたるは勿論軍事行動の上から見るも亦重要な使命を負ふものである、従つて土木費就中道路費の如きは尤に老慮し軍部首腦者に於ても亦國防費の一部に屬する經費たるの考を以て其の大削減を防止せねばならぬことと信ずる、新聞紙の報ずる處では道路改良會は明年度土木費豫算に關し内閣、内務、大藏の三相に建議することを役員會に於て決議したりと果して然らば更に海陸軍部にも其精神の存する所を披瀝して以て土木費の復活を要求すべきである、だが更に議會へと其歩調を進めて正々堂々と其の主旨を徹底せしむるの要ありと思ふ。(石鏡生)

### 多讀か精讀か

近時の様に雜誌に單行本に數へられぬ程書籍多量に生産せらるる時代はなからう、従て良書と悪書との區別が容易に立たないので自然多讀の弊に陥るのである。元來讀書は吾人に何を與へるかラスキンの言ふ如くに「眞の立身出世をなす人とはその心の益々優しくなる人、その情に益々温かになる人、その頭腦の愈々明敏となる人、その

精神の愈々生きた平和に進み入る人これを云ふのである。斯様な性質を有する人々こそ實にこの地上に於ける眞の王侯貴族である」故に良書を精讀することに依つて眞の立身出世を爲す能力を賦與せらるるのである。然らば良書とは何ぞ其書を精讀することとに依つて自己の心境は自ら練磨さるるのである。ラスキンは「悪書は決して永讀せず良書は必ず永讀するものと定つておらぬ」と言ふて居るは當然尋常の事である。

追ひかけらるる心持で讀書せねばならぬ讀書子は可憐である、元來が追ひ立てられて書かされて居るのが普通平凡な書籍であるだが讀書にも種々の目的をもつてをるが共通する點は多讀するを須ず唯精讀することと不易を求めて流行に就かず暇つぶしのために讀むな考ふるために讀むと云ふことである、讀書も亦面倒なものである、改良會の方よせめて吾々田舎役人の爲めに眞の良書を推薦せられよ敢て希望する。(浦戸漁人)

### 責任の歸着點如何

學校や役所や會社などに宿直なるものがあつて多くは下級のサラリーマンが當直す

るそれで變事がなくて夜が明けりや鳥の啼く聲に目をさましてヤレ安心と云ふ心地になる處が泥棒が這入つたり、ボヤが出たりすると先づ當直者がイの一番に所轄警察署に呼出されて訊問せられ、陳述が曖昧だと留置せらるゝ。幸ひに申ひらきがついて帰宅すると家族には猜疑の目を以て視らるるでなくば宿直明けの又の一夜の不歸の理由をたゞされる、夫れからが大變だやれ始末書の提出だのやれ謹慎だやれ譴責だやれ罰俸だそうなると年末賞與に影響する處が少なくない、宿直者の責任もまた重いかなである、小學校の校長が商賈人の上前をはねて父兄達は驚くが其責任は何邊に歸着するか、軍服着用のギヤング團は犯罪の動機が奪いとか精神が重んぜらるべきものだとかの理由で軽く處罰せられ國法の威嚴を保持し革命的行動を防止せんことに誠意を以て諭告した檢察官が却つて世間から敬遠せらるる世相である國家の安寧を嚴守するの精神が批難せられ、手段を選ばずして暴舉に出で人命を徒死せしめた行動に同情がよせらるる現象は實に奇々妙々である。眞摯な責任感の行衛や如何。(夏木生)